家　　庭

1　全般的事項

問１　家庭科の改訂に当たっての改善の基本方針と、小学校家庭科、中学校技術・家庭科の教科の目標との関連はどのようになっているか。

次の表は、家庭科の改善の基本方針と小学校家庭科、中学校技術・家庭科、高等学校家庭科の目標を示したものである。

改善の基本方針	(ｱ) 衣食住やものづくりなどに関する実践的・体験的な活動を通して、家族の人間関係や家庭の機能を理解し、生活に必要な知識・技術の習得や生活を工夫し創造する能力を育成するとともに、生活をよりよくしようとする意欲と実践的な態度を育成することをより一層重視する観点から、小学校の家庭科、中学校の技術・家庭科及び高等学校の家庭科について、その領域構成や内容の改善を図る。 (ｲ) 男女共同参画社会の推進、少子高齢化等への対応を考慮し、家庭の在り方や家族の人間関係、子育ての意義などの内容を一層充実する。また、情報化や科学技術の進展等に対応し、生活と技術とのかかわり、情報手段の活用などの内容の充実を図る。 (ｳ) 基礎的・基本的な知識・技術を確実に身に付けさせるため、実践的・体験的な学習を一層重視するとともに、環境に配慮して主体的に生活を営む能力を育てるため、自ら課題を見いだし解決を図る問題解決的な学習の充実を図る。 (ｴ) 家庭・地域社会との連携や生涯学習の視点を踏まえつつ、学校における学習と家庭や社会における実践との結び付きに留意して内容の改善を図る。

	小学校家庭科	中学校技術・家庭科	高等学校家庭科
目標	衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、	［家庭分野］ 実践的・体験的な学習活動を通して、	人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、
	家庭生活への関心を高めるとともに日常生活に必要な基礎的な知識と技能を身に付け、	生活の自立に必要な衣食住に関する基礎的な知識と技術を習得するとともに、	生活に必要な知識と技術を習得させ、
		家庭の機能について理解を深め、	
	家族の一員として生活を工夫しようとする実践的な態度を育てる。	課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。	男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる。

問２　普通教科「家庭」の３科目の目標はどのようになっているか。

次の表は、「家庭基礎」、「家庭総合」及び「生活技術」の目標である。

	家庭基礎（２単位）	家庭総合（４単位）	生活技術（４単位）
目標	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する	人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣食住、消費生活などに関する	人の一生と家族・福祉、消費生活、衣食住、家庭生活と技術革新などに関する
	基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、	知識と技術を総合的に習得させ、	知識と技術を体験的に習得させ、
		生活課題を主体的に解決するとともに、	生活課題を主体的に解決するとともに、
	家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

問３　「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」の指導は、どのような取扱いになっているか。

問題解決能力の育成や地域におけるボランティア活動を一層重視する観点から、「家庭基礎」、「家庭総合」及び「生活技術」の科目において「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」を履修させることとしている。ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動は、各科目の学習内容を生かして、生徒が各自の家庭生活や地域の生活と結び付けて、生活上の課題を見いだし、解決方法を考え、計画を立てて実践できるようにし、問題解決能力の育成を図ろうとするものである。ホームプロジェクトを実践することによって、各科目の学習で習得した知識と技術を一層定着し、総合化することができる。また、学校家庭クラブ活動を実践することによって、各科目の学習で習得した知識と技術を、学校生活や地域の生活の場に生かすことができ、勤労の喜びを味わわせ、社会奉仕の精神を涵養することができる。

「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」における問題解決能力の育成及びボランティア活動、生徒の自主的な活動等については、「総合的な学習の時間」と関連する内容であり、相互に関連付けて取り組むことも考えられる。

問４　普通科において専門教科「家庭」を履修させる場合の配慮事項は何か。

職業生活に必要な基礎的な知識や技術・技能の習得や、望ましい勤労観・職業観の育成はすべての生徒に必要である。したがって、普通科においても、生徒の実態に応じて、働くことの意義、喜び、楽しさや厳しさを学び、職業生活を送るための基礎的な知識や技術・技能に関する学習の機会の充実に努める必要がある。

普通科においてどのような教科・科目を履修させるのがよいかについては、生徒の特性や進路希望等により、また、各学校の指導教員、施設・設備等の条件等により、一律には決められないが、普通科で履修させることが考えられる科目としては、「消費生活」、「発達と保育」、「児童文化」、「家庭看護・福祉」、「リビングデザイン」、「フードデザイン」等がある。

特に、職業準備として履修させる場合には、低学年又は中学年から、ある程度まとまった単位数を配当し、各科目を系統的に履修できるようにするなどして、職業準備にふさわしい学習ができるよう配慮する必要がある。

2　具体的事項

問１　普通教科「家庭」の３科目の内容の「人の一生と家族・福祉」、「人の一生と家族・家庭」に関して、内容の構成と取扱いはどのようになっているか。

家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中で総合的にとらえ、家庭生活を主体的に営む能力と態度を育てることを重視して、従来の「家庭一般」、「生活技術」及び「生活一般」における「家族と家庭生活」を、「家庭基礎」及び「生活技術」では「人の一生と家族・福祉」へ、「家庭総合」では「人の一生と家族・家庭」へと改めた。３科目の内容と「家庭総合」の内容とその取扱いは次の表のようになっている。

「家庭基礎」「生活技術」の内容	「家庭総合」の内容とその取扱い	
(1) 人の一生と家族・福祉 ア 生涯発達と家族 (ア) 生涯発達と各ライフステージの特徴 (イ) 家庭の機能と家族 (ウ) 生活設計	(1) 人の一生と家族・家庭 ア 人の一生と発達課題 (ア) 生涯発達と各ライフステージの特徴 (イ) 青年期の課題 イ 家族・家庭と社会 (ア) 現代の家族の特徴 (イ) 家庭の機能と家族関係 (ウ) 家族・家庭を支える労働 (エ) 家族・家庭と法律 (オ) 家庭生活と福祉 ウ 生活設計 (ア) ライフスタイルと生活にかかわる価値観 (イ) 家族と生活時間 (ウ) 生活設計の立案	ここでは、人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律、家庭生活と福祉などを扱い、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させる。 これらの学習により、男女共同参画社会の実現を目指し、男女が相互に協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について認識させる。 また、青年期の課題を踏まえ、各自の生活設計の立案を通して、将来の家庭生活と職業生活の在り方について考えさせる。
イ 乳幼児の発達と保育・福祉 (ア) 乳幼児の心身の発達と生活 (イ) 親の役割と保育 (ウ) 子どもの福祉	(2) 子どもの発達と保育・福祉 ア 子どもの発達 (ア) 母体の健康管理と子どもの誕生 (イ) 子どもの心身の発達と特徴 (ウ) 子どもの生活と遊び イ 親の役割と保育 (ア) 親の役割と子どもの人間形成 (イ) 親の保育責任とその支援 (ウ) 子どもを生み育てることの意義 ウ 子どもの福祉 (ア) 児童福祉の基本的な理念 (イ) 子どもを取り巻く環境の変化と課題	ここでは、子どもの発達として、母体の健康管理と子どもの誕生、子どもの心身の発達と特徴、子どもの生活と遊びなどについて親の役割と保育として、子どもを生み育てることの意義、親の役割と子どもの人間形成、親の保育責任とその支援などについて理解させる。 また、子どもの福祉についても理解させ、子どもの健全な発達を支える親の役割と保育の重要性や社会の果たす役割について認識させ、保育への関心をもたせる。 「子ども」については、乳幼児に加えて小学校低学年までを含めて扱うこととする。
ウ 高齢者の生活と福祉 (ア) 高齢者の心身の特徴と生活 (イ) 高齢者の福祉	(3) 高齢者の生活と福祉 ア 高齢者の心身の特徴と生活 (ア) 高齢者の心身の特徴 (イ) 高齢者の生活と課題 イ 高齢者の福祉 (ア) 高齢社会の現状と課題 (イ) 高齢者の自立生活支援と福祉 ウ 高齢者の介護の基礎 (ア) 食事、着脱衣、移動などの介護 (イ) 介護の心構えとコミュニケーション	ここでは、高齢者の加齢に伴う心身の変化と特徴、高齢者の生活、高齢者の福祉の基本的な理念と高齢者福祉サービスなどについて理解させるとともに、介護の基礎を体験的に学ぶことを通して、高齢者の自立生活を支えるために家族や地域及び社会の果たす役割について認識させる。 高齢化が進行する中、すべての生徒が加齢に伴う一般的な心身の変化と特徴を理解して高齢者を肯定的にとらえ、高齢者とかかわることができるようにすることが重要なことである。

問２　衣食住について、３科目のねらいと内容はどのようになっているか。

衣食住については、「家庭基礎」では家族の生活と健康に重点を置き、「家庭総合」では科学的に理解するとともに生活文化の視点でとらえることに重点を置き、「生活技術」では調理、被服製作、住空間の設計などの実習に重点を置くとともに項目選択ができるようになっている。次の表は、３科目の衣食住のねらいと内容を示したものである。

	家庭基礎	家庭総合	生活技術
ねらい	(2) 家族の生活と健康 家族の食生活、衣生活及び住生活に必要な基礎的な知識と技術を習得させ、家族の生活を健康で安全かつ快適に営むことができるようにする。	(4) 生活の科学と文化 衣食住の生活を科学的に理解させるとともに、衣食住に関する先人の知恵や文化を考えさせ充実した衣食住の生活を営むことができるようにする。	(4) 食生活の設計と調理 栄養、食品、調理などに関する知識と技術を習得させ、充実した食生活を営むことができるようにする。 (5) 衣生活の設計と製作 被服の着装、製作、管理などに関する知識と技術を習得させ、充実した衣生活を営むことができるようにする。 (6) 住生活の設計とインテリアデザイン 住居の機能、設計、管理などに関する知識と技術を習得させ、充実した住生活を営むことができるようにする。
内容	ア 食生活の管理と健康 (ア) 家族の栄養と食事 (イ) 食品と調理 (ウ) 食生活の安全と衛生	ア 食生活の科学と文化 (ア) 人間と食べ物 (イ) 栄養と食事 (ウ) 食品と調理 (エ) 食生活の管理	(4) 食生活の設計と調理 ア 家族の食生活と栄養 イ 食品と調理 ウ 食生活の管理
	イ 衣生活の管理と健康 (ア) 被服の機能と着装 (イ) 被服材料の特徴と被服管理	イ 衣生活の科学と文化 (ア) 人間と被服 (イ) 被服材料の性能と特徴 (ウ) 被服の構成と製作 (エ) 被服整理と衣生活の管理	(5) 衣生活の設計と製作 ア 被服の機能と着装 イ 被服の構成と製作 ウ 衣生活の管理
	ウ 住生活の管理と健康 (ア) 家族の生活と住居 (イ) 住生活と健康・安全	ウ 住生活の科学と文化 (ア) 住居の機能 (イ) 住空間の計画 (ウ) 住環境の整備	(6) 住生活の設計とインテリアデザイン ア 家族の生活と住居 イ 住居の設計とインテリア計画 ウ 住生活の管理 エ 生活と園芸
		エ 生活文化の伝承と創造	

問３　消費者教育及び環境教育と食生活、衣生活を関連させる場合の留意事項は何か。

消費者教育や環境教育を充実する観点から、従前の「家庭一般」、「生活技術」及び「生活一般」における「家庭経済と消費」を「家庭基礎」及び「生活技術」では「消費生活と環境」へ、「家庭総合」では「消費生活と資源・環境」へと改め、消費生活や消費行動と環境とのかかわりに関する内容の充実が図られた。

食生活に関連しては、「家庭総合」、「生活技術」において、資源・エネルギーに配慮した食品の購入や調理などにも触れる。衣生活に関連しては、３科目において、資源の有効利用の観点から衣類の購入、活用、手入れ、保管、再利用、廃棄などを考えた被服計画の必要性についても理解させるよう留意する必要がある。